



Express Setup

初めてスイッチをセットアップする場合は、Express Setup を使って初期 IP 情報を入力する必要があります。このプロセスによって、スイッチはローカルルータおよびインターネットに接続できるようになります。その後、IP アドレスを使ってスイッチにアクセスし、その他の設定を行うことができます。

- [必要な機材](#) (1 ページ)
- [Express Setup の実行](#) (1 ページ)

必要な機材

スイッチを設定するには以下の機材が必要です。

- Windows または Mac を実行しているコンピュータ。
- JavaScript が有効な Web ブラウザ (IE または Firefox)。
- コンピュータをスイッチに接続するためのストレートまたはクロスのカテゴリ 5 イーサネットケーブル。



(注) コンソールポートを Express Setup に使用しないでください。

- ボタンに届く小さなペーパークリップ。



(注) Express Setup を実行する前に、ブラウザのポップアップブロックやプロキシ設定、およびコンピュータで実行しているワイヤレスクライアントを無効にします。

Express Setup の実行

Express Setup を使用して初期 IP 情報を入力するには、このセクションの手順を実行します。

始める前に

Express Setup を使用する前に、次の内容を確認してください。

- スイッチが工場出荷時のデフォルトモードになっていることを確認します。
- スイッチに何も接続されていないことを確認します。

Express Setup の実行中、スイッチは DHCP サーバーとして動作します。スイッチに接続されているコンピュータが DHCP で設定されていることを確認します。



(注) 例外：シリアルコンソールケーブルを接続し、起動シーケンスを観察できます。コンソール画面で *Return* キーを押さないでください。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

スイッチの状態が下記の場合...	下記を実行
開梱したばかり	ステップ 2 に進みます。
開梱したばかりではない	スイッチをリセットします。ペーパークリップでボタンを 15 ～ 20 秒間押し、Express Setup LED が赤色と緑色に交互に点灯したら、ペーパークリップを離します。 Express Setup LED が赤色と緑色に交互に点滅すると、スイッチは自動的にリブートします。

(注)

Express Setup を長押しすると（ボタンを 15 秒間押しすと、スイッチがリセットされ、工場出荷時のデフォルト設定が使用されます）、フラッシュおよびリムーバブルメディア（SD カードや USB フラッシュドライブ）から設定（nvram_config および vlan.dat）が削除されます。SD カードや USB フラッシュドライブからファイルを削除したくない場合は、リムーバブルメディアを取り外してください。

ステップ 2 スイッチに接続されているコンピュータで、Web ブラウザのポップアップブロックとプロキシ設定を無効にします。

ステップ 3 スイッチに電源を接続します。

配線の手順については、[スイッチの接地](#)および[スイッチへの DC 電源の接続](#)を参照してください。

ステップ 4 スイッチの電源を入れるか、リセットします。

LED を使用してブートの進行状況を観察します。

- Express Setup LED の点滅 : Express Setup プロセスの実行が可能な状態

- ステップ 5** ペーパークリップを Express Setup ボタンに 3~5 秒間差し込みます。
解放すると、最も下の空き銅線ポートが緑色に点滅し始めます。
- ステップ 6** 緑色に点滅しているポートにコンピュータを接続します。
LED が点滅し続けます。
- ステップ 7** コンピュータの IP アドレスが 192.168.1.x に設定されたら、ブラウザで http://192.168.1.254 にアクセスします。
ウィザード画面を使用したセットアップが表示されます。
- ステップ 8** クラシックディ 0 ウィザードを選択します。
ログインページが表示されます。
- ステップ 9** [ユーザー名 (Username)] と [パスワード (Password)] を入力します。
ユーザー名は「admin」、パスワードはシステムのシリアル番号です。装置のシリアル番号の確認方法については、[スイッチのシリアル番号の確認](#)を参照してください。
[Account Settings] ウィンドウが表示されます
- ステップ 10** **[Account Settings]** ウィンドウで、以下のタスクを実行します。
- a) **[Account Settings]** ウィンドウのフィールドに次のように入力します。
- [Login Name] : admin
必要に応じて変更できます。
 - [Login User Password] : デフォルトでは、スイッチのシリアル番号です。
必要に応じて変更できます。
 - [Confirm Login User Password] : 先に使用したパスワードを再入力します。
 - [Command-Line Password] (任意) : これは、デフォルトでログインパスワードに同期します。
ここでドロップダウンメニューを使用して、コマンドログインパスワードを変更できます。
 - [Device Name] : ネットワーク内の装置の識別子を作成します。
 - [NTP Server] (任意) : 装置の NTP サーバーをここで指定できます。
 - [Date & Time Mode] (任意) : ドロップダウンからモードを指定します。

問題

アカウント設定ウィンドウが表示されない場合、ブラウザのポップアップブロックやプロキシ設定がすべて無効になっているかを確認します。また、コンピュータでワイヤレスクライアントが無効になっていることを確認してください。

- b) **[Account Settings]** ウィンドウのフィールドへの入力完了したら、**[Basic Settings]** をクリックします。

ステップ 11 **[Basic Settings]** ウィンドウで、以下のタスクを実行します。

- a) 英数字を使用して、次のようにフィールドに入力します。
- **[IP Address]** : **[Static]** または **[DHCP]** を選択します。
 - **[VLAN ID]** : **VLAN ID** の値を入力します。
これは、スイッチの管理 **VLAN** です。
 - **[IP Address]** : 有効な **IP アドレス** を入力します。
 - **[Subnet Mask]** : 有効な **サブネットマスク** を入力します。
 - **[Default Gateway]** : ルータの **IP アドレス** を入力します (**IP が固定の場合は必須**です)。
IP アドレスが静的な場合は、ルータの IP アドレスを入力する必要があります。

(任意) この画面では、**Telnet** と **SSH** を有効/無効にして、**CIP 設定** を行うこともできます。

CIP VLAN は **管理 VLAN** と同じであってもかまいませんが、そのスイッチですでに設定されている別の **VLAN** 上で **CIP** トラフィックを分離することも可能です。デフォルトの **CIP VLAN** は **VLAN 1** です。スイッチで **CIP** を有効にできるのは、1つの **VLAN** だけです。**CIP VLAN** が **管理 VLAN** と異なる場合は、**CIP VLAN** の **IP アドレス** を指定する必要があります。スイッチに割り当てる **IP アドレス** が、ネットワーク上の他の装置の **IP アドレス** と重複していないことを確認してください。

CIP VLAN 設定の詳細については、ツールバーの **[Help]** をクリックしてください。

- b) **[Basic Settings]** ウィンドウのフィールドへの入力完了したら、**[Switch Wide Settings]** をクリックします。

ステップ 12 **[Switch Wide Settings]** ウィンドウで、次のタスクを実行します。

- a) 次のようにフィールドに入力します。
- **[Data VLAN]** : このボタンで **データ VLAN** を有効または無効にできます。
 - **[Voice VLAN]** : ここで **音声 VLAN** を有効または無効にできます。
 - **[STP Mode]** (任意) : ドロップダウンから **STP モード** を選択します。
 - **[Bridge Priority]** (任意) : ここで **Bridge Priority** を更新、有効化、または無効化できます。
 - **[Domain Name]** (任意) : 有効な **ドメイン名** を入力します。
- b) **[Switch Wide Settings]** ウィンドウのフィールドへの入力完了したら、**[Day 0 Config Summary]** をクリックします。
- [Summary]** ウィンドウに、行った設定内容が表示されます。

ステップ 13 **[Summary]** ウィンドウで、設定が正しいことを確認し、次のいずれかのアクションを実行します。

設定が下記の場合...	下記を実行
正しい場合	[Submit] をクリックして、初期設定を完了します。
正しくない場合	<ol style="list-style-type: none"> 1. [back] ボタンをクリックし、必要な変更を行います。 2. [Summary] ウィンドウに戻ります。 3. [Submit] をクリックして、初期設定を完了します。

[Submit] をクリックすると、以下のイベントが発生します。

1. スイッチが設定され、Express Setup モードが終了します。
2. ブラウザに警告メッセージが表示され、スイッチの以前の IP アドレスによる接続が試行されます。
3. 成功ダイアログが表示されます。**[OK]** をクリックします。

設定されているスイッチの IP アドレスがコンピュータの IP アドレスとは異なるサブネット内にある場合は、通常、コンピュータとスイッチ間の接続が失われます。

ステップ 14 DC 電源を電源側から切り、スイッチにつながるすべてのケーブルを外してから、ネットワークにスイッチを設置します。

ステップ 15 コンピュータの静的 IP アドレスを変更した場合は、以前の設定に戻してください。

次のタスク

Web UI を表示するには、次の手順を実行します。

1. コンピュータで Web ブラウザを起動します。
2. Web ブラウザにスイッチの IP アドレス、ユーザー名、パスワードを入力し、Enter キーを押します。WebUI ページが表示されます。



問題 WebUI ページが表示されない場合：

- ネットワークに接続しているスイッチ ポートのポート LED が緑色になっていることを確認します。
 - スイッチへのアクセスに使用しているコンピュータをネットワーク内の既知の Web サーバーに接続して、コンピュータがネットワークに接続していることを確認します。ネットワークに接続していない場合は、コンピュータのネットワーク設定をトラブルシューティングします。
 - ブラウザで入力したスイッチの IP アドレスが正しいことを確認します。
 - スイッチの IP アドレスに ping を実行し、IP に到達可能であることを確認します。
 - ブラウザに入力したスイッチの IP アドレスが正しく、スイッチ ポートの LED が緑色になっており、コンピュータがネットワークに接続している場合は、コンピュータをスイッチに再接続してトラブルシューティングを続行します。スイッチの IP アドレスと同じサブネット内のコンピュータに静的 IP アドレスを設定します。
 - コンピュータに接続されているスイッチポートの LED が緑色の場合は、Web ブラウザにスイッチの IP アドレスを再入力し、Web UI を表示します。Web UI が表示されたら、スイッチの設定を続行できます。
-

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。